



愛川ふれあいの村9月の風景

平成24年 9月 自然のたより

村の中では、昼にはセミ、夜にはコオロギの音が響き、夏と秋の虫の鳴き声が聞こえますが、短くなった日の長さで秋の訪れを感じます。村内ではトンボの姿も目立ち始めました。

＜9月の自然のエピソード＞

第一薪倉庫の横のコナラの林にドングリの葉と実がついている枝が落ちています。葉は青いままで、枯れ落ちているわけではありません。その切り口はまるでハサミできりとったようにきれいです。これを落としているのは1cmにも満たない小さな昆虫チョッキリ虫。長い口を使って実と帽子の境目の近くに穴をあけ、産卵をし、切り落とすのです。



アキアカネ



クリの山



イチモンジセセリ



ヒガンバナ



ショウリョウバッタの叔



ツルボ



オミナエシ



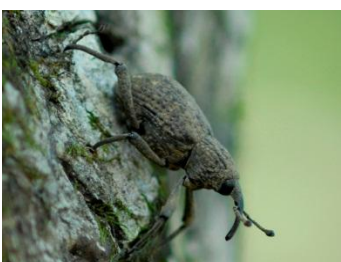
ヤマトシリアゲ



カクトラノオ



イロハモミジの種子



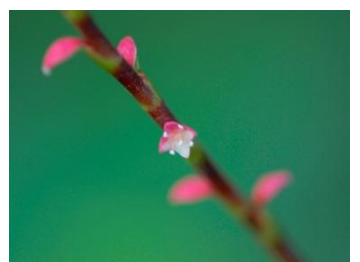
オオゾウムシ



ハイイチョウリの産卵後



キンミズヒキ



ミズヒキ